

小麦の生育が早まっています
適期の防除と実肥施用で品質・収量確保！

1. 気象および麦の生育状況

昨年以上の記録的な暖冬となり、今後も高温で経過した場合、出穂期は平年より10日程度早まることが見込まれます。適期を逃さず、防除と実肥施用を実施しましょう。

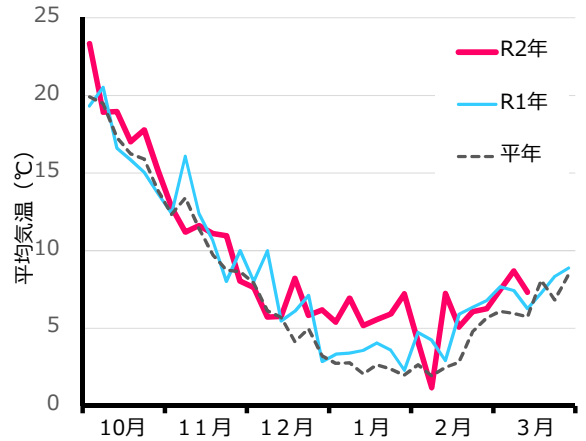


図 麦作期間の平均気温

2. 品質・収量確保に向けた管理 (1) 赤かび病防除

防除適期は開花期です。1回目の防除後、曇雨天が続く場合は、1週間後に2回目の防除を行いましょう。

【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花期)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
～11月上旬	4月5日前後	4月15～20日	4月22～27日
11月中旬	4月10日前後	4月20～25日	4月27日～5月2日

※気温の経過により、出穂期～穂揃期～開花期までの日数が長くなる場合があります。

(2) 実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。出穂10日後に実肥を施用しましょう。

【実肥量(窒素成分)の目安】

穂数が多い場合(300本/m ² 以上)	3～4kg/10a
穂数が少ない場合(300本/m ² 未満)	2～3kg/10a

※現在、莖数が少なく、葉色が薄い場合は、子実粒数の向上のため、出穂10日後の実肥に加えて、走り穂が出る直前の4月上旬頃に窒素成分で2kg/10aを追肥しましょう！